

10月12日(月)

神はキリストにあった

聖書朗読 マタイ 27:27-44

神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。 II コリント 5:21

真の王であるイエス様は皆の前でなぶりものにされました。兵士たちはイエス様をひどく鞭で打った後、無力な王と侮辱しました。クレネ人のシモンという男にイエス様の十字架を背負わせました。イエス様とともにいた二人の罪人はイエス様をなじりました。通行人はイエス様をひどくけなし、あざ笑いました。そこにいた祭司長や律法学者や長老たちもイエス様をなぶりものにしました。イエス様は、友人、身内、弟子たち、誰一人いない中、お一人で苦しみにあわれていました。読者だけがイエス様とともにいるのです。神ですら、イエス様に背を向けているかのようです。無関心、冷笑、皮肉はいたるところで見られます。

しかし、神は一時もイエス様のもとを離れてはいませんでした。すぐに地が揺れ動き、こんな世でさえも手を差し伸べるため、神はそこにおられることをお示しになりました。神は御子と共に苦しみを受けておられました。神の贖いと救いはこの時の十字架の上にあります。

十字架の上に 我は仰ぐ
我がため悩める 神の御子を
妙にも尊き 神の愛よ
底いも知られぬ 人の罪よ
——E・C・クレファン (讃美歌 262)

讃美歌 262

祈り 聖なる父。十字架を見るときはいつもあなた様の愛とめぐみを知ることができますように。

キリストの御名によって。アーメン。

ロナルド・L・タイラー
カリフォルニア州 カマリロ

今日の力

2015年10月12日～10月18日

翻訳 阿部やよい

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

10月13日（火）

イエス様のためにできることをします

聖書朗読 マタイ 27：54～61

そこには、遠くからながめている女たちがたくさんいた。イエスに使えてガリラヤからついてきた女立ちであった。 マタイ 27：55

イエス様が裁きにかけているとき、弟子たちは意気消沈して姿を消していったのにもかかわらず、イエス様のそばにいて、自分にできることをした人たちがいました。イエス様が十字架にかけているとき、イエス様の前に立ったローマの百人隊長もその一人でした。イエス様の死を見届けた百人隊長は、「この方はまことに神の子であった」と叫びました（マルコ 15：39）。

ユダヤ人指導者であるアリマタヤのヨセフとニコデモ（ヨハネ 19：39）と遠くから見ていた信者たちが現れ、イエス様のからだの下げ渡しを願い、埋葬の準備をし、ヨセフの墓にイエス様の体を納めました。ヨセフは「思い切って」これらを行ったとマルコは語っています（マルコ 15：43）。

特に重要なのは、イエス様に奉仕しながら、ガリラヤから同行していた勇敢な女性たちです。十字架の袂にただけでなく、その中の幾人かは、イエス様の埋葬後、墓に戻りました。

彼らが行ったイエス様に対するご奉仕を知るたびに、私はたとえどんなに危険な場でもイエス様を認め、たいしたことができないときでも、私はイエス様のために何かをしようという気持ちになります。

讃美歌 332

祈り 親愛なる主。大きなことが起きたときに備えていられるよう、イエス様のために何かできる機会が与えられたとき、それがとんなに小さくても忠実な者として仕えることができるようお助けください。
イエス様の御名によって。アーメン。

カール・ミッシェル
アーカンソー州 サーシー

10月14日（水）

それが良い知らせ！

聖書朗読 マルコ 1：1～15

私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じる全ての人にとって、救いを得させる神の力です。 ローマ 1：16

それが手紙であれ、メールであれ、電話であれ、または扉の中で受けとったものであれ、良い知らせを聞くのはいつだってうれしいものです。良い知らせは不安をとりのぞいたり、または、ただただ私たちを幸せにしてくれるときもあります。おそらく、これが初期の使徒たちがイエス様のメッセージを「良い知らせ」と言った理由でしょう。

神の御子イエス様が人としてこの地に来られ、私たちの罪のために十字架の上でお亡くなりになり、復活を通して征服された死は、まさに良い知らせです。

マルコはイエス様の生涯に関する話を良い知らせと呼びました。マルコは、イエス様は良い知らせを教えるために来られたと言っています。イエス様が御国に戻られた後、弟子や使徒たちは良い知らせを他の人たちに伝えました。使徒たちは『毎日、宮や家々で教え、イエスがキリストであることを宣べ伝え続けた。』（使徒 5：42）

使徒の働きを通して、私たちは良い知らせを望み、メッセージを聞き、そしてそれを受け入れ、イエス様に従って信仰に入った人々を知ります。今のこの世でも同じです。良い知らせを必要としている人々で溢れています。良い知らせが見つかる唯一の場所、それはイエス様について書かれている聖書の中です。

讃美歌 491

祈り 親愛なるお父様。良い知らせを自分だけで独り占めするのではなく、皆にと分かち合うことができるようお助けください。
イエス様の御名によって。アーメン。

フィリップ・アイヒマン
サウスカリフォルニア州 イルモ

10月15日(木)

法 と 秩 序

聖書朗読 マルコ 2:23～27

安息日は人間のために設けられたのです。人間が安息日のために造られたのではありません。
マルコ 2:27

法を必要とするのは誰でしょうか？ それは私たちです。法が存在しない生活を想像してみてください。まさにこの世は「カオス」となるでしょう。つまり「法と秩序」という言葉は片方無しではもう片方は存在しないものです。

もしこの世に法が存在しなかったら、車の運転はどうなるでしょう？ ポルトガルリスボンで乗ったタクシーを思い出します。必死にしがみつकिながら「ここには交通法は存在しないの？」と思ったほどの雑な運転でした。一応ルールはあるようで、その中の一つは「先に交差点に入った車に優先権がある」というのはわかりました。(少なくとも私にはそう見えました)

神は私たちが楽しむことがないように法(律法)をお造りになられたと言う人もいます。でも、それは違います。イエス様の時代でさえ、神がお与えになられた法を正しく理解していない人がいました。法は、それによって人々を喜びから遠ざけるのではなく、法によって人々を不幸から救うために造られたのです。安息日の法は完璧な例です。神がおっしゃりたいのは、「時々あなたは休む必要があります。座って休みなさい。それがあなたのためです」ということではないでしょうか。

神が造られた法全てに、人のためを思う気持ちがこめられています。ですから、今日、神の法の一つを真剣に考えてみましょう。結局は私たちのためであることが分かります。

讃美歌 56

祈 り 親愛なるお父様。あなた様の法について考え、その中に喜びを見つけ、日々の中でその法を守っていただけますようにお助けください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ベン・マリネス

テキサス州 アマリロ

10月16日(金)

良 く 見 ま し ょ う

聖書朗読 マルコ 8:22～26

ただ一つのことだけ知っています。私は盲目であったのに、今は見えるということです。
ヨハネ 9:25

この盲目の人のように、私たちも見えるようになる必要があります。弟子たちはイエス様とともにいたのに、イエス様が見えていませんでした。弟子たちには思い描いていた理想のメシア像がありました。それは苦しみにあっている救い主の姿ではありませんでした。力強く、そして彼らの理想のメシアを待ち望んでいたのです。彼らが望んでいたのは力と名声を持つメシアでした。イエス様の癒しの手に始めて触れた後でさえ、盲人の視界はぼやけていました。歩いている人間が木に見えていました。もう少し矯正をしないと、目の前にいるメシアが良く見えなかったのです。

失意の中にあるとき、「この恐怖の中、痛み、不安の中、神はどこにおられるのか？」または「なぜ私が？」という疑問がわいてきます。この間に対しては、勇気のある信仰を持ったときのみ、その答えが得られるのです。この問いに対する完璧な答えを得られないかもしれません。でも困難なときに私たちを導いてくださるのはイエス様です。イエス様は、深い孤独、苦しみ、痛み、死に耐え抜かれた御方です。イエス様は私たちの苦悩の救い主です。イエス様は「コンドルの羽ばたきを聞き、顔にかかる霧」、を感じておられました。そしてその中をとまらずに通り返け、そして言われます。『あなたは私の命を奪うことはできません。私が与えるのです。』イエス様はどのように生き、愛し、苦しみにあい、死ぬかを私たちに示してくださっています。イエス様を信じましょう。イエス様は私たちを知っておられ、けっして私たちを見捨てることはありません。ただ良く見ましょう。

讃美歌 II 167

祈 り 恵み深い主。安らぎと平安を私たちにお与えくださりありがとうございます。私たちの目と心を開き、あなたのすばらしい愛とめぐみを見逃さないようにしてください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ジュディ・サイバート

テキサス州 アビリン

10月17日(土)

このようにして力は働く

聖書朗読 マルコ 14:43～52

柔和な者は幸いです。その人は地を相続するからです。

マタイ 5:5

柔和な人はあなたの全てをコントロールしようとは思いません。あなたを惑わそうとする人はあなたにひどい仕打ちをしようとしているに違いありません。ひそかにイエス様を捕らえるように命令を下していたユダヤ人リーダーたちは標準よりも悪い人たちではなかったのですが、社会構造全体が危機にひんしており、そのような中、やむを得ずいくつかの法律は破られてしまったのです。このようにして力は働きました。

イエス様は人気のある説教者で、田舎では群衆をひきつける力がありました。しかし、大都市にいたイエス様は、ただ小さな町の学者たちと議論するのとは違って、大物を相手に議論しなければなりませんでした。そして、今度は教えられる立場となりました。収賄判事のまえで、小額の賄賂、裏切り、目撃者の買収の中、あつという間の裁判が行われました。その裁判は昼前には終わっていました。このようにして力は働きました。

イエス様は、神に従うことによって、死を超えた勝利を得ました。ユダヤ人指導者が不当にたくらんだイエス様の死によって、イエス様は彼の元に来る人全ての命の源とされたのです。ユダヤ人政治家たちが守っていると思っている世界は彼らの世代で崩壊しました。イエス様の柔和さで勝ち取った王国は決して終わることはありません。このようにして力は働いたのです。

讃美歌 177

祈り 親愛なるお父様。あなたは私たちを謙虚な気持ちにさせ、傲慢な気持ちを取り除いてくださることを知っています。目先の力の幻想をみるのではなく、御子だけが持つ真の力を見ることができるようお助けください。イエス様の信じ方を教えてください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ジム・バード

オクラホマ州 エドモンド

10月18日(日)

知恵を求めて祈る時間です

聖書朗読 マルコ 15:1～12

そこでピラトは彼らに答えて、「このユダヤ人の王を釈放してくれというのか」と言った。ピラトは、祭司長たちが、ねたみからイエスを引き渡したことに、気がついていたのである。 マルコ 15:9～10

「ねたみ」とはなんと見苦しい言葉なのでしょう。祭司長たちは決してねたんでいることを認めませんでした。祭司長たちは、自分たちはただ最善のことをしているだけだと自分を納得させていました。祭司長たちは、神の御言葉を神聖で清いものとしておかなければなりませんでした。当時ユダヤは混乱の状態にありました。その地は自身の罪を誇りに思っている邪悪な大臣によって治められていました。国全体が完全に悪化に向かっていました。誰かが線を引きなければなりませんでした。そして、彼らが動いたのです。彼らはもはやこの異端を、この冒涇を、教会内でのこの不道徳を赦すことはしなかったのです。大臣たちは正しいこと、神の義を行うために立ち上がりました。

しかし、祭司長たちはここでは法を守る神の大いなるものとして名を残せませんでした。彼らの義は後世には残らず、彼らの嫉妬だけが残ってしまいました。法を守るといのは建前です。彼らは口先だけではうまいことを言いました。彼らは群衆を納得させる方法を知っており、彼らは自分たちが正しいと確信していました。

祭司長たちはイエス様のために、もしくはこの大事のときに、神の御心に従うための知恵を求めて祈る時間を持つことはしませんでした。彼らは神からの英知を求めませんでした。私たちは求めることができます。行動を起す前に、何を選べば神の御心になうのか、神にお聞きしましょう！

讃美歌 531

祈り 聖なるお父様。人生の導き手、どうか私に清い心をお与えください。どうしたら自身のことよりも周りの人を大切に思えるのか私たちにお教ください。私たちの心から嫉妬や邪悪な心を消し、自分ではなく、あなた様が望まれることを心からできるようにお助けください。

イエス様の御名によって。アーメン。

メリアン・バスキン

テキサス州 サン・アントニオ